

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ちえりいくらぶ		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 1日		～ 2025年 9月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2025年 9月 1日		～ 2025年 9月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 10月 1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援経験の長い従業者が多い。また、障害がある家族を持つ支援者の割合が高く、利用者及びご家族の視点に立った考え方によるコンセンサスが取りやすい。	ミーティングの時間を最大限確保できるよう調整を行っている。各利用児のライフステージをご家庭のニーズや諸事情を踏まえた現実的な支援方針を考察している。	従事する時間が少ない支援者が、知見をより深められる仕組み作りを進めていく。
2	法人内の就労継続支援事業所の資源やネットワークを活用し社会体験及び職業体験のカリキュラムを提供できる。	利用児が楽しみながら取り組めることと保護者様のニーズが一致した上で実施することを徹底している。	改めてカリキュラムの実施頻度及び発信の仕方を見直して行くこととしている。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様にお集まりいただき意見交換を行う場や、ペアレントトレーニング等ご家族にご参加いただく研修に機会を全く設定できていない。	業務全般の役割分担に偏りがあり、より円滑に企画及び実施が出来るための仕組みづくりを改めて行っていく必要がある。従業者の強みや総合的な能力の偏りが要因となっている。	チームで取り組み、保護者様が情報を得やすく気軽に交流の機会に参加できる機会を提供するよう計画を立てていく。
2	情報発信と訴求力に課題がある。	これまで実施してきたカリキュラムや各マニュアル等、全ての保護者様や関係者の方々へ十分にご理解いただく為の情報発信の在り方への見直しが必要となっている。	紙面やホームページにおいてただ発信するだけではなく、個々の情報の意味や魅力をお伝えするような工夫を行っている。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ちえりいくらぶ

公表日 2025年10月16日

利用児童数 21人 2025年9月30日

回収数 5

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	3	2			あまり確認する機会がない。 伺う時間がない。	日々の活動の様子を直接見て頂き、 保護者様にご参加いただける機会の企画 を検討していく。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	5					
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	4	1				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	5					
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	3	1		1		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	5					
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	5					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	5					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	5					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	5					
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	1	1	2	1		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	5					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	4	1				
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1	1	2	1		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	5					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	3	1		1		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	4			1		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	1	1	2	1		
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	3	2					

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	5					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	3			2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	5					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2		1	2	緊急時対応及び感染症対策マニュアル等1年に1回は周知のプリントを配布してほしい。	マニュアルの更新については、ご案内する時期を明確にし、滞りなく周知し確認を怠ることがないように改める。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3			2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	4	1				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	3	2				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	5					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	3	1		1		
	29	事業所の支援に満足していますか。	5					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ちえりくらぶ		公表日		2025 年 10月 16日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		活動内容によりスペースや時間を分けし、カリキュラム等に集中できる環境づくりを目指している。	各支援者がどのカリキュラムに携わっても円滑に支援できる仕組みを構築していくことが課題となる。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		常勤換算において、児童指導員2.0に加えその他従業者1.0が基本配置となるが、さらに必要に応じて配置を厚くしている。	事業所運営を長期的に見れば、若い職員の育成が今後の課題となっている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	1	訓練指導室を多目的に活用できるよう円滑に移動させることが出来る机や椅子を設置している。トイレは車椅子が入ることが出来るスペースを要している。	車いすを使用する頻度が高まりつつある利用児に対する環境面についての今後の配慮や、支援内容の検討を早急に行っていく必要がある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		日々、サービス提供開始前及び終了後に清掃を欠かさず実施している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		カリキュラムとは別に、自由に遊ぶ時間と場所、ゆったりと休む環境を必要に応じて提供している。	空間には限りがあるので、常時すべてのニーズにお応えすることはできず、順番を待ってもらう場面がある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	1	サービス提供開始前の時間を使い、モニタリングや個別支援計画原案をもとにした支援会議を実施している。	就業時間の都合上、殆ど参加できていない従業者がいることに対し、対応策を早急に検討する。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	6		最低限のご案内をするに留まっており、具体的にご意見を頂きやすい仕組みを構築し、内容を反映していくべきと考えている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		日々の打ち合わせや連絡事項の共有ツールの確保等、通常考えられる情報共有の手段の確保と改善に向けた意見交換の場を設けている		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	2	行政書士から付度なく客観的な指導や評価を受けている。	第三者委員を設置するに至っていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		必須研修や各委員会を法人会議と連動させ、定期的実施している。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		ホームページ内において常時公開している。毎月15日以降に紙面に翌月のカリキュラムをご案内している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		日々のミーティング及び情報確認ツール、個別支援計画原案をもとにした支援会議において当事者ニーズを考察している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		支援計画原案作成後の支援会議や日々のミーティングの中で共有及び点検を行っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8			地域支援・地域連携については、支援の必要度や要望、ご家庭の状況などから支援の幅と深さにバラツキが出ている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	1	個々の利用児のニーズや課題、各支援者の強みやポテンシャルを踏まえ、意見を交えながら考案している。		
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	2		個々の利用児の日々の成果や成長をよりご確認しやすくなるよう、情報の提示の仕方や仕組みづくりに工夫が必要と考えている。		

適切な支援の提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	3	日々の情報共有を行うための方法を仕組直し確認を怠ることがないように徹底している。その日のサービス提供終了後に全ての従業員が情報を共有することが難しい為、翌日のサービス提供開始前の時間を十分に活用している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	3		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直し必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	9			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		可能な限り参加できるよう調整を相互協力により各関係機関と連携を図っている。	児童発達支援管理責任者が主となり参加しているが、各支援者が参加できるよう調整を行っている。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	2		一部の学校との連携の取り方について、改定に向けてのご協力及びご提案を行うべきケースが残っている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		情報提供や連携をとる準備は整えている。	保護者様や相談支援員の要望に合わせてご対応するが、それに至らないケースもある。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	3		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	6	今年度から地域の住民の方にお越しいただく内覧会やイベントを始めている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	3		当該市の自立支援協議会において、障害児通所支援事業所の参加の機会が設けられるようになれば、積極的に参加していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		6		ペアレントトレーニングの必要性とニーズを把握し、今後想定される課題を見越した企画及びご案内を行っている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		契約前のご説明時に重要事項説明書及び契約書を全文読み上げし、ご不明な点についてのご確認を欠かさず行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	3		全ての利用児及びご家族と同じ深さや頻度でニーズや権利及び利益を把握するための機会を設けることが出来ていない。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	2		直接お会いしての面談の機会を設定するにあたって、時間や頻度にバラツキが生じることに對しての工夫が求められている。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		7		ご家族のニーズとしては表出していないが、そのことで受け身にならず、積極的に交流の機会を企画し、施設内でお集まりいただくことから検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		9		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		9		毎月翌月のカリキュラム予定等のお知らせをお渡しし、ホームページに掲載している。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		9		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		7		情報伝達の備忘策を改善していく余地がありスキームを見直していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7		今年度は8月に内覧会及び活動内容のご紹介をする機会を設け、地域の住民の方々をお招きした。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	2		全ての保護者様に情報が行き渡るところまで確認するスキームを構築するに至っていない為、具体的な方法を考案していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		9		備蓄品や非常食の数量及び消費期限等、定期的に点検を行っている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	1		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			活動内容や設備全般についての点検を、日々行うものと各月に実施するものとを分けて行っている。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	3		改めて定期的に行っていく仕組みの見直しに着手することとしている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9			法人全体研修と事業所ごとの周知研修を滞りなく二重構造により実施している。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7				